

ごあいさつ

アイヌ民族文化研究センター広報紙創刊によせて

北海道知事 横路孝弘

北海道立アイヌ民族文化研究センターはアイヌ民族文化の研究機関として平成6年6月1日に開設いたしました。



アイヌ民族は北海道に古くから先住しており、独自の伝統文化を育み今日の道民の生活文化にも多くの影響を与えてきています。長い歴史の中で育まれてきた本道の重要な文化的資産であるアイヌ民族文化が次世代によりよく継承されていくよう、アイヌ民族文化研究センターでは調査研究をすすめ、伝承活動に携わっている方々を支援してまいりたいと考えております。

このたび当センターの調査研究や資料収集の状況など種々の情報を広くお知らせするために、広報紙「アイヌ民族文化研究センターだより」を発刊することといたしました。アイヌ民族の文化や歴史、そしてそれらの研究に対するご理解を深める一助となれば幸いです。

アイヌ民族文化の継承に貢献できる研究機関として発展することができるよう、皆様の一層のご理解とご指導、ご協力をお願い申し上げます。



広報紙創刊にあたって

北海道立アイヌ民族文化研究センター所長 深澤信夫

平成6年6月1日に「北海道立アイヌ民族文化研究センター」が設置され、早くも5カ月が過ぎました。この間にお寄せくださいました皆様のご支援に厚く御礼を申し上げます。

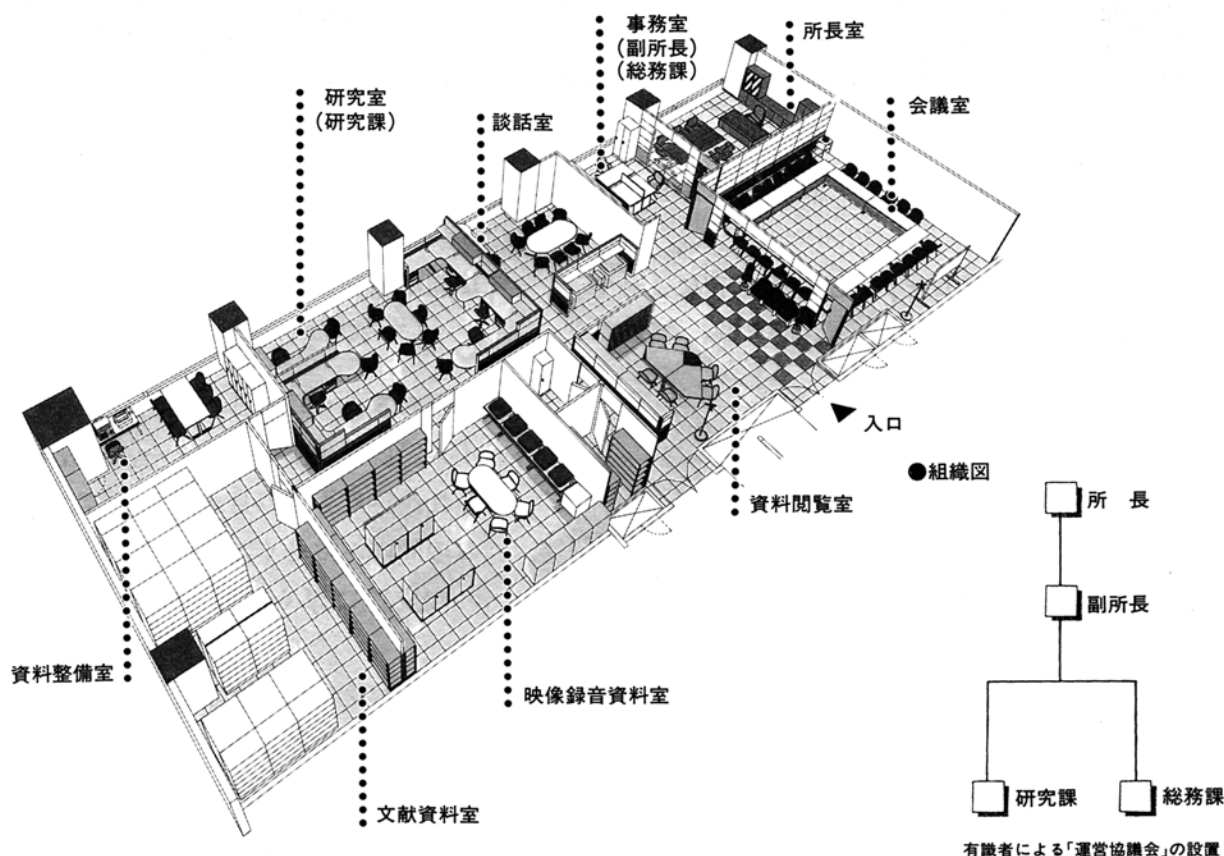


当センターは、アイヌ民族が育み今日の本道の生活文化にも多くの影響を与えて来た貴重な文化の振興に寄与するため、各地域の文化伝承活動や各分野における研究を支援し、アイヌ文化の生きた伝承に貢献する研究のセンターとしての役割を担っていくことを目指しております。

現在、書籍や映像・録音などの資料も徐々にその収蔵点数を増やしつつあります他、当センターも含め全国各地に所蔵のアイヌ文化関係資料の情報整備にも着手いたしました。また、研究スタッフも各自の研究テーマに基づく研究調査を既に進めており、来春には第1号の研究紀要を刊行する予定であります。

このように活動を始めたばかりではありますが、皆様にその一端をお知らせする広報紙を創刊いたしましたのでご覧いただきたいと思っております。今後職員一同、研究の発展を期して一層の努力を重ねてゆく決意でございますので、皆様のさらなるご指導、ご協力をお願い申し上げまして創刊のご挨拶といたします。

施設紹介



研究事業について

現在、当センターでは「調査研究事業」「情報収集提供事業」「普及活動事業」の3つを柱に活動しています。今号ではこれらについて以下ご紹介しましょう。

1 調査研究事業

研究領域（対象）については、アイヌ文化全般とし、「アイヌ文化の継承」を基本テーマに、当面次の4分野により進めます。なお研究テーマによっては外部研究者の参画を得ます。

- ・歴史～アイヌ民族の歴史全般に関する研究
- ・言語～アイヌ語の地域別分類整理等、アイヌ語の継承を促進する手法等の研究
- ・芸術～古式舞踊、民族音楽等の演技・演奏技術等が正確に、またより高次のレベルで継承されるための学術的研究
- ・生活技術～木彫、民族衣装、生活用具などの作成・

使用が正確に、また、より高次のレベルで継承されるための学術的研究

2 情報収集提供事業

- (1) 道内外のアイヌ文化に関する研究情報、資料の収集・分類等体系的な保存管理をおこないます。
- (2) 収集対象は、関係文献および映像、録音記録等とします。特に、道および道教育委員会の事業成果（録音テープ等）のほか道立施設が保有するアイヌ関係資料を集約し、整備（コピーを含む）します。
- (3) 収集資料を利用可能な状態に整備し、外部研究者や一般道民の研究や継承活動のニーズに対応します。
- (4) 道立の関係施設（開拓記念館、北方民族博物館など）や道内外の関係研究施設等との研究情報の相互提供等、広く連携を図ります。

3 普及活動事業

- (1) 地域のアイヌ文化の伝承活動を支援するため、地域の指導者への助言や各種資料の提供をおこなう他、職員を研究会の講師として派遣する等の事業をおこないます。
- (2) 市民講座などを開催し、アイヌ文化の普及、理解促進を図るとともに、研究紀要の作成、文化等の解説書を作成します。

センター主催 第1回アイヌ文化講演会

さる9月14日、かでる2・7(北2西7)8階820研修室において、当センター主催の「第1回アイヌ文化講演会」が開催されました。

今回講師としてお招きしたのは、秋辺得平氏(社団法人北海道ウタリ協会理事)と萩中美枝氏(札幌大学講師)のお二人です。会場には約120人の方々にお集まりいただくことができました。



秋辺得平氏



萩中美枝氏

所長の開会挨拶に続き、まず秋辺氏に「受け継ぐ民族の心」という演題でお話いただきました。古老たちのエピソード、アイヌ文化の継承、ものや形に込められたアイヌ民族の精神、などについて熱弁をふるわれました。

次に「山田秀三とアイヌ語地名」と題し萩中氏がお話くださいました。著名なアイヌ語地名研究者である故・山田秀三氏とご公私にわたり親交のあった萩中氏ならではの逸話の紹介や、よく知られたア

イヌ語地名についての詳細な解説がおこなわれました。



センターでは今後も定期的にこのような講演会を各地で開催する予定です。どうぞお楽しみに。

山田秀三文庫について

アイヌ語地名研究家の故・山田秀三氏のご遺族より収蔵図書および古地図等の寄贈のお申し出がありました。これまでの山田氏の研究に対する理解を深めるために役立つばかりでなく今後のアイヌ文化研究にとっても大変貴重な資料となるため、センターでは謹んでこれをお受けし、「山田秀三文庫」と命名することになりました。さる7月15日には故人の姪にあたる末益和枝ご夫妻(東京在住)が来道され、横路知事に目録等を手渡されました。

目下センターでは整備作業にかかっていますが、その膨大な量と内容の濃さを考えますと、やはり目録の整備完了・公開は2～3年先になるかと思われます。

《山田秀三氏の略歴》

- ・明治32年 東京生まれ。東京大学法学部卒業後、農商務省入省。
- ・昭和16年 仙台鉱山監督局長就任
- ・昭和19年 商工省整理部長就任

- ・昭和20年 退官
- ・昭和24年 北海道曹達(株)取締役社長就任
- ・昭和44年 北海道曹達(株)会長辞任
- ・昭和49年 北海道文化奨励賞 受賞
- ・昭和54年 北海道文化賞 受賞
- ・昭和57年 北海道曹達(株)相談役辞任
- ・平成3年 北海道新聞文化賞 受賞
- ・平成4年 東京都太田区の自宅で死去

《主な著作》

山田氏は仙台鉱山監督局長時代からアイヌ語地名の研究を始め、その後金田一京助博士に師事。アイヌ語地名研究の第一人者として活躍されました。

- ・昭和57～58年
「アイヌ語地名の研究 山田秀三著作集」全4巻(草風館)
 (「幌別町のアイヌ語地名(共著、昭33)」「北海道の川の名(昭46)」など多数所収)
 - ・昭和59年「北海道の地名」(北海道新聞社)
 - ・昭和61年「アイヌ語地名を歩く」(北海道新聞社)
 - ・平成5年「東北・アイヌ語地名の研究」(草風館)
- これらは、アイヌ語地名を理解するための必読書とされています。

《寄贈資料の主な内容》

- ◇図書(戦前・戦後含め) 約5,500点
- ◇文書資料(古地図、自筆ノートなど含む) 約10,000点
- ◇音声・映像資料
(カセット、オープンリール、8ミリフィルム他) 約250点
- ◇SPレコード 約300点
- ◇写真資料(ネガ) 約350本
(他写真多数)

フィールドだより 〈コタン オロワ クヌ〉

アイヌ語調査のため9月4日からフィールドに入ったが、最初はどの古老も必ずといってよいほど「何も知らない」と言われる。そのことばを信じてそのまま帰るようでは調査は成り立たない。古老にとってのアイヌ語は、60年以上も前の幼き日の思い出だ。僕の質問に答えられない古老の苦悩が伝わる。僕は短い童歌をアイヌ語で歌った。「おばさんの子供の頃の唄はどんなだった？」またもや、沈黙の辛い時間が流れる。お年寄りをいじめたような一日を送った。

翌日、おばさんの幼なじみを連れてたずねると「昨日の唄をやってみろ」と僕に言う。「ふーん、やっぱり違うな、こっちはこうだ。オンネ パシクル イーネ。タラ タク ワ イーサム。ネータラ イーネ。…」と40秒間歌った。昨夜、フトンに入ってから眠れずに口ずさみ思い出されたという「オンネ パシクル」をみんなで歌った。

これからも、おおいに刺激するぞ。 (Y・O)

編集後記

◆ニュースレターの名前をどうしよう？といろいろ候補をあげてみたものの、結局シンプルに「アイヌ民族文化研究センターだより」にしました。ご意見ご感想お寄せください。

◆開所して約5カ月間に多数の問い合わせ(うち約半数を占めたのがアイヌ語に関する質問)がありました。アイヌ民族の文化やその研究に関してちょっと確かめたいことを気軽に問い合わせてもらえるセンターにしていきたいと思っています。

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

〒060 北海道札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5階
 Tel 011-272-8801(代) Fax 011-272-8850
 開館/月～金 9:00～17:00 休館/土・日・祝